

昭和20年8月7日－豊川海軍工廠大空襲

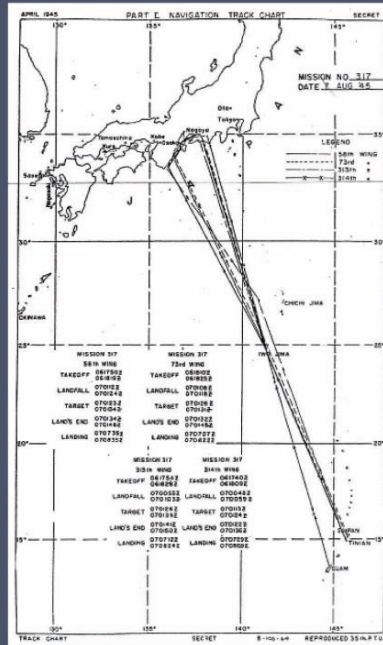
昭和20年8月7日の日本時間午前2時40分から3時28分までの間に、B29爆撃機124機からなる4つの爆撃団が、グアム島基地・テニアン島西基地・テニアン島北基地・サイパン島イスレイ基地から豊川海軍工廠を目指して発進し、硫黄島からは護衛としてP51戦闘機が飛び立ちました。各爆撃団は紀伊半島を目指して北上し、そこから北東に進路をとり、攻撃始点である知多半島先端を経て豊川海軍工廠上空へと向かいました。そして10時13分に豊川海軍工廠大空襲が始まり、4つの爆撃団は合計3,256発もの500ポンド爆弾を10時39分までの26分間に投下しました。この空襲では日本軍戦闘機による要撃はなく、御津山山頂の高角砲陣地からの攻撃も1機のみ帰還途中で硫黄島付近で墜落させただけで、ほぼ無防備の状態での空襲でした。



500ポンド爆弾の着弾の状況

(国立国会図書館蔵、原資料：米国立公文書館)

米軍により撮影された写真。指揮兵器部付近での着弾の様子で、爆撃による煙が見られないことから(下の写真参照)、空襲当初に撮影されたものと考えられます。



爆撃団飛行ルート図
(国立国会図書館蔵、
原資料：米国立公文書館)



空襲を受け炎上する豊川海軍工廠
(国立国会図書館蔵、原資料：米国立公文書館)